

青梅のにじ

〈発行〉

日本基督教団 隠退教職ホーム
にじのいえ信愛荘
運営委員会 須藤 繁

〒198-0052 東京都青梅市長淵2-687
電話：0428-22-2283 FAX：0428-22-2317
Eメール：nijinoiesinaiso@wish.ocn.ne.jp

振替口座番号 00120-3-358467

加入者名：にじのいえ信愛荘

礼拝を共にして

隠退教師 渡辺 正男



千葉県館
山の南房教
会に仕えて
いたとき、
「にじのい

え」の方々とは礼拝を共にして、親しくしていました。その継続のように「にじのいえ信愛荘」の主日礼拝に招かれて、月一度説教のご用を担当しています。ちょうど6年になります。

教会に長年仕えてこられた隠退教師、そして連れ合いの方々と共にささげる礼拝には、同労者という思いからでしょうか、不思議な安心感というか、安堵感があります。でも、その礼拝において説教を語ることが、容易ではありません。

牧師は説教を語ることに全力投球しています。しかし、聴くことはどうでしょう。自ら省みて思うのですが、他の牧師の説教を聴くのは、概して上手であるとは言えないように思うのです。ですから、「にじのいえ信愛荘」の礼拝で説教を語るときは、とても緊張します。

その説教を語るわたしの心構えのような思いを、少しく記してみます。

一つは、戦友と共に御言葉に聴く、という思いです。

戦友と言う言葉に抵抗のある方がおられるでしょう。以前隠退するときを用意した小冊子に、連れ合いのことを「戦友」と記しました。その文章を目にした友人から、「戦友という言葉は嫌いだ」と叱るように言われたことがあります。その気持ちはよくわかります。けれど、パウロも戦友という言葉は何度か使っています。フィリピ書2章25節に「わたしの戦友」とあり、フィレモン書2節にも「わたしたちの戦友」とあります。主の福音のために生死を共にする仲間という意味合いで、戦友は捨てがたいのです。

牧師の家庭には固有の喜びや苦労がありますね。たとえば、小規模の教会では、謝儀が教会会計の支出の多くの部分を占めています。その謝儀で支えられる牧師の家庭の精神的負担は、当事者でないと分かってもらえ

ないかもしれません。

「にじのいえ信愛荘」の礼拝は、そのような苦楽を共にした戦友と一緒にささげる礼拝である、と思っているのです。

もう一つは、人生の午後も遅い夕暮れ時を歩む者として、御言葉の豊かさを共に味わいたいという願いであります。

朝日新聞の歌壇で、「老眼鏡かければ見ゆる歳となり若くて見えざる世界の見えたり」という歌が目に残りました。

齢を重ねて、気力体力の衰えていくのは仕方ありません。少しずつ主にお返しするのです。けれど、齢を重ねるからこそ見えてくる御言葉の世界があるのではないのでしょうか。齢を重ねるからこそ分かってくる主の恵みの深みがあるのではないかと、思うのです。

そういう御言葉の豊かさを共に分かち合う礼拝でありたい、と願わずにおれません。

能楽の世阿弥に、「老後の初心」という言葉があります。午後も遅い夕暮れ時を生きる者なりに、主の福音の温かさを新たに見出して、共に味わい、共に感謝したいのです。

復活の主ハレルヤ

にじのいえ信愛荘イースター礼拝・祝会

窓の外に、春の山の新緑がまぶしく輝く信愛荘の礼拝堂で、
3月29日（火） 10時30分からイースター礼拝が捧げられました。

出席者60名

【礼拝】

司式 深山 祐師

奏楽 朝岡 健一

頌栄 21-29番

主の祈り

交読詩編 30編 司式者

聖書 ヨハネによる福音書

20章24-29節

祈禱

讃美歌 21-333番

説教 「見ずして信ずる信仰」

木下宣世師

祈禱

讃美歌 21-78番

使徒信条

聖餐式 司式 木下宣世師

配餐 吉川幸子 柏井雅子

献金 高崎ワカ（祈禱）

山添和加 矢田部昌枝

頌栄 21-27番

祝祷 説教者

後奏

【説教】

「見ずして信ずる信仰」

ヨハネによる福音書 20章24-29節

東京・西千葉教会

牧師 木下 宣世



「にじのいえ 信愛荘」の
イースター礼拝
を共に守る機会
を与えられ感謝します。

先日、ある牧師から忘れられない説教を伺いました。会員の女性が病気で入院されたので、仲間の婦人会員の方たちとお見舞いに出かけたそうです。

ところが病室に行きその方の顔を見た時、その先生は愕然とされました。見間違えたのではないかと思つた程その方が変わ果てていたからです。勿論病

気のために衰弱するのは当然のことです。しかし、この先生が驚かれたのは、以前喜んで教会生活をしていたこの女性から、信仰者としての面影が全く消え失せてしまつていたからであります。

この牧師は自分がこれまで語ってきた説教は何だったのだらうかと深刻に考えさせられたと言われました。これまで特に信仰義認について力を入れて語ってきたけれども、終末や再臨の希望について、十分に語つて来なかつたのではないかと反省させられたと言つたのです。

この説教は私の胸にこたえました。「同感」と思つたのです。信仰は若く元気な時だけでなく、むしろ病氣になつたり、老いて教会にも行けなくなつた時にこそ、その人を生かし慰めや希望を与えるものではないでしょうか。

そのようなことを考えさせられていた時、私はトマスの物語、特に主イエスがトマスに言われた「見ないのに信じる人は、幸いである」という御言葉を思い出したのである。

主イエスの復活を信じられな

かつたトマスに、現れた主イエスは八日前にトマスが言つた通り、お前の指を私の手の釘あとに着けて見よ、お前の手を私のわき腹に入れて見よとおつしやつたのです。そして、「信じない者ではなく、信じる者にならないさい」と言われました。その御言葉によりトマスはひれ伏して「わたしの主、わたしの神よ」と叫びました。これはトマスの信仰告白であり礼拝の姿です。

トマスは変えられました。復活の主にお目にかかつて信じる者に変えられました。

私たちは本当に主イエスの復活を信じているでしょうか。本当に信じて疑わないなら私たちは幸いです。困難な病いにかかつて、老い衰えても希望を失いません。不安、恐れ、空しさ等に支配され、負けてしまうことはありません。

何故なら私たちはからだのみがえり、永遠の命が与えられ御国の世継とされるといふ確かな約束を頂いているからです。

私たちもトマスのように変えられ、見ずして信ずる信仰をあたえられるよう祈りましょう。

【祝会】

恵みに満ちた礼拝後、春の日差しが明るい多目的ホールで「祝会」が開かれました。

松村誠一施設長の司会により、深山祐荘長の歓迎の挨拶、そして讃美歌151番によって、主のご復活の喜びの歌声がホールいっぱいに響き渡りました。

会食

一番新しい入荘者の横山利江姉の祈りに始まり、食堂担当の皆さんが心を込めて作ってくださった、春の色いっぱいのお弁当やフルーツを美味しくいただきました。荘の庭に咲く花々が各テーブルに彩りを添え、持ち寄りの手作りクッキーやパウンドケーキ、イースターの可愛いカードが並び、会話のはずむ、楽しい時を過ごしました。

音楽

食事の和やかな時が終わり、小林恵姉のピアノ演奏「ショパンのワルツ・11番」が午後のホールの満ち足りた空間を静かに流れました。

紹介

司会者による招待者、運営委員の紹介に始まり、荘員のお一人おひとりの自己紹介が始まりました。傍らから、そっと助け舟を出されるスタッフの優しさに、温かな思いをいただきました。続いてスタッフ、ボランティアの皆さんの紹介があり、3月に生れた在荘者のお祝いもありました。

一部を紹介させていただきます。

*イースターになると、安かれというみ言葉を思い出します。イエスが共にいてくださるという平安と安心を覚えます。



*最近うれしい事がありました。神学生時代からの古い友人が85歳で洗礼を受けました。私も迎えて6月で87歳、共に天国行きのよき準備が出来たと電話で喜び合いました。

*5年前夫婦で入荘しました。昨年3月に天に召された主人は長い海外での伝道の中で「最後は信愛荘がある」と常にほほえみを絶やさぬ人でした。このイースターから明るい笑顔で皆様に感謝しつつ、6年目を歩んで行きたいと思います。

*荘の礼拝で献金のご用をしています。小さいご奉仕が出来ることを感謝しています。

*この1年大きな病気もなく、無事に過ごすことができました。毎日、皆様のお支えとお祈りに感謝して過ごしております。

祝辞

前総幹事 内藤留幸師

竹井祐吉先生の荘長の時代に信愛荘の運営委員を務めて以来、本当にひさしぶりに青梅の里をお訪ねしました。

比較的若く教団の委員とされた私は、当時から日本基督教団の伝道について考えた時、伝道者である教師にとって大切なことが二つあると問題提起をしてきました。

戦争の辛い時代を福音伝道のために生涯を捧げてこられた先生方が、なかなか牧師を辞められないという現実がありました。隠退後住む場所が備えられていないこと、生活できる年金の用意がないことでした。この願いと祈りが実現されて「信愛荘」と「にじのいえ」が出来、生活を助ける年金局が生み出されました。

その後合併して「にじのいえ信愛荘」となり、祝福された今があることは大きな神の恵みです。虹の輪のもとに、主にある希望をもって、それぞれ楽しく生活してくださるよう祈ります。

(黒沢咲子・報)

主の御計らい



横山 利江

4月、青梅丘陵は冬から目覚め、春の衣をまとい始めます。「にじのいえ信愛荘」の南側の森は、まず薄黄緑をした木々の新芽が伸び始め、日毎に色を増し加えついに輝くばかり、滴る程の新緑の洪水です。

小鳥たちは木々の枝で啼き交わし、特に鶯のライブコンサートに酔いしれます。別名「春告げ鳥」とはまさしく納得です。荘のB棟と森が双壁となり、小さな谷を作るので音響効果は抜群です。ホール東側の花壇の花達も「私を見てー」と咲き誇ります。住み始めて発見する荘の魅力です。

引越しを済ませ半年が過ぎました。感謝のうちに荘の生活を楽しんでいく私の耳元に、夫の声が聞こえます。「よい住人になりなさいね」

「はい、わかりました。でもあなたが一緒ならもっとよかったです」

2003年4月、牧師であった夫幸夫は元「信愛荘」の荘長のお役をいただき、その任務はよい学びの時であり、荘の皆様との交わりを喜んで、小平から青梅迄車で通っておりまして。私も荘の行事に出させていたただいて、親しみを育んでおりました。しかし、夫は就任して3年目の夏頃より、体調の不良が顕著となり、秋には癌末期の宣告を受けたのでした。突然に深い淵へと突き落とされる如くのショックでした。

翌年3月、開拓伝道をひたすら走り続けた夫は、教会と「信愛荘」で、なすべき勤めを残したまま、67年の生涯を閉じました。

それから9年を経て、今私が「にじのいえ信愛荘」の住人となる迄には、館山の元「にじのいえ」との出会いがあり、2010年「にじのいえ信愛荘」合併に際し、現地スタッフに加えていただいていた道のりがあります。

合併という出来事は一般的にも多くの課題があるようですが、その只中で「施設長」とは本心が、経験豊かなスタッフ、運営委員の方々に支えられて、2年間緊張しつつも充実感を身に帯びて青梅まで通いました。

合併という大きな節目に、荘の営みに関わらせていただいたことは本当に光栄なことでした。

入荘して間もない頃、あるクリスチャンの友に荘の生活について話したところ「毎朝の礼拝、夕べの祈りは修道院のようですね！」そうだ、わたしにとって修道院こそ信仰の旅路のはじまりだったと遠い日の記憶が甦りました。

私は18才でカトリックの洗礼を受け、ラテン語で捧げられるミサに与かり、スペイン人のシスターが信仰の指導者でした。修道院の夕礼拝、シスター達の捧げる聖歌は天上の美しさでした。

一年月を経て、私は日本基督教団の信徒になり、今日に至っています。――

これらの日々は、私にとって宝石のように輝く一ページなのですが、今「にじのいえ信愛荘」で守っている礼拝の讃美の歌声も、静かで美しいハーモニーです。讃美歌の歌詞が特別に心に響く朝があります。心が穏やかにきよめられるように感じます。祈りをもって始める一日は、聖書の御言葉と共に在ります。

不思議な糸に引かれるように青梅の地へと導かれました。夫と共に歩んだ年月、与えられた二人の息子達とその家族、出会ったすべての方々、全てに主の御計らいの中に生かされてきたことを深く感謝いたします。

小さくても与えられた生活の中で、希望の光を灯し続け歩んでまいります。

(2015年11月24日入荘)
(西東京・花小金井教会員)



受難週、復活節の想い出



伊藤 地塩

♪お墓の中からイエス様が
お甦えりになりました

お花もニコニコ

おめでとう イースター

♪暗い悲しい夜が明けて
明るい朝になりました
ヒヨコもビヨビヨ

おめでとう イースター



主イエス様のご復活を感謝し
お慶び申し上げます。復活節に
関する讃美歌にはたくさん思い
出があるのに、子供の頃から口
をついて出てくる歌がこれなの
です。もしお一人でもこの歌を
ご存知の方がおられたら、ご一
緒に歌いたいです。

当時私が属していました教会
は、現在の渋谷の広尾教会で、
その前身は、「麻布美普教会」と
いって、現在の港区にありまし
た。1936年に移転して、町
名の豊分から「豊分教会」と改名

されました。

1941年以降にはメソジス
ト・日本美普教会系の教会が合
流合併された結果、日本基督教
団「豊分教会」となりました。そ
して1996年には再び、町名
の変更によって、現在の「広尾教
会」となったのです。

大正末期から昭和へと続く不
況の時代、私の父伊藤与雄が牧
していました当時の豊分教会に
は、和田英作・香苗画伯夫妻や
津川主一牧師もおられ、音楽な
ど文化的に高度な雰囲気になっ
ていました。

また1949年には124坪
の狭い土地ながら、幼稚園の認
可もおりて、教会婦人会と幼稚
園の母の会が互いに協力し合い
ました。また、青年会、壮年会
も何事につけても皆一生懸命で
した。

バザーやバイブルクラスも、
特別伝道集会の時も、いつも祈
禱会に始まり、祈禱会で終りま
した。

受難週の6日間、早天祈禱会
は都営バス運行の都合から、朝
6時半から会が始まりました。
東洋英和、明治学院、早稲田実
業、青山学院、麻布中高、桜美

林からの中高生が集まりました。

また、女子聖学院の英語教師、
体育教師や、区立中学、都立高
校の生徒と教師たちも出席し、
平均15名が参加しました。

祈禱会が終って、紅茶とパン
を食した後、教会からそれぞれ
登校し、出勤しました。

6日目の土曜日には、婦人会
の有志がイースターエッグ10
0個を茹でて着色し、イース
ター礼拝に備えます。

報告 春の花見・有間ダム

吉川 幸子

4月15日金曜日、桜満開とい
うわけにはゆかなかったが、天
気よく、山々や民家の庭は緑に
添えられた赤、ピンク、黄色の
花々に彩られ、道中も含めて
違ったお花見を楽しんだ。ダム
の近くで湧き水に舌鼓。ペット
ボトルを持参すればよかった！

昼食は「山の茶屋」にて。荘員
8名、スタッフ4名、車3台。

9時半に荘を出発し、13時半
に無事帰荘した。感謝。

(にじのいえ信愛荘 在荘)



〈有間ダム〉 埼玉県飯能市の県営ダム。洪水防止用の治水ダムと農業用水、水道水用の利水ダムの両方の機能を持つ小規模ダムである。

普段は幼稚園の園舎として兼
用している礼拝堂を、青年会員
が整理整頓して掃除し、小学生
以上成人は、イースター礼拝を
合同礼拝としてまわりました。
講壇のゆで卵は、礼拝後皆で
持ち帰りました。
遠い記憶ですが、イースター
を迎える度に、懐かしい思い出
として生き生きと蘇ってまいり
ます。(にじのいえ信愛荘 在荘)

近況報告

荘長 深山 祐

【再び礼拝について】

今年1月2日の朝、荘の朝礼拝を荘員の方々と共に守るため、東青梅駅から荘に急いでいた私は、思わず歩みを緩め目を凝らしました。多摩川をはさんで向かいの低い山の稜線沿いに、えも言われぬ茜色の帯状の朝の光を見せていただいたのです。「大空は御手の業を示す」との詩編19篇の御言葉のように、神の創られた被造世界の姿を示され、息をのむ荘厳な瞬間でありました。

朝食前、荘員が自主的に行う礼拝という〈行為〉そのものが、荘を荘たらしめていることを、まだ荘長を引き受けてから短い期間ですが、益々思わしめられております。

朝ごとに「礼拝」を守り、全国の諸教会のことを覚えて祈ること。そのことを荘員の方たちが何よりも大切にしておられることを、時折、出席させていたただく度に、心に深く刻ませられ

ております。

荘の運営は、設立の趣旨により公的援助を受けることなしに、荘費と運営母体の協力金、全国の主にある兄弟姉妹・諸教会・諸団体からの尊い献金によって支えられています。

この荘の〈現在の姿〉を今後も、保持し続けてゆくことは至難のように見えますが、神の憐れみのみ手にお委ねしたいと思えます。そのことをお覚えいただき、諸教会の皆さまの祈りとお支えを今後もお願いする次第であります。

さて、これまで毎月第一主日礼拝の説教と奏楽のご奉仕のため、埼玉県から来てくださった森優・園子牧師ご夫妻がご都合で退かれました。代って、1月より清瀬弘毅牧師が八王子から来荘し、説教のご奉仕を担っておられます。

森牧師ご夫妻の長年のご奉仕を心から感謝申し上げます。

【新しく入荘された方々】

横山利江姉が昨年11月下旬入荘されました。横山姉は、花小金井教会の開拓伝道と、さらに、

合併前の信愛荘の困難な時期を、荘長としての責任を果たされる只中、病のため天父のもとに帰られた横山幸夫牧師のご夫人です。ご自身も、合併後しばらく施設長として尽くしてくださいました。この度、荘を愛し、古巣の荘に戻ってこられたことは、



荘員一同の喜びであります。

次に、今年4月27日長年、雪深い福島県会津地区の須賀川教会および川桁伝道所に仕えてこられた柳沼政一牧師・齊子夫人が新しく入荘されました。

入荘前、面接のため、鈴木運営委員長、飯澤現地連絡調整委員、三浦生活主任と私が、1月27日雪にすっぽり覆われた川桁伝道所にお伺いした時のことです。傘を人数分持参の柳沼牧師が、無人の川桁駅頭で待つておられ、私たちはその傘をさして駅から7分位のところにある川桁伝道所に到着。奥様が教会の玄関にて正座をしてお迎えくださり、お二人の誠実で謙遜なお人柄に深く教えられました。

齊子夫人はご病気をお持ちですが、数年前の入院の際、主治医から完治はむずかしいと告げられた時、神に感謝され、「これで神様だけにお頼り出来る」と心底思われたと、私たちに述べられました。その徹底した深い信仰に感動を覚えました。

入荘後の現在、お二人は荘での生活を平安のうちに過しておられます。

運営委員会報告

運営委員長 鈴木 功男
(東京・目白教会)

「にじのいえ信愛荘」は全国の教会、学校など多くの皆様のお祈りと献金によって、支えられております。心からの感謝を申し上げます。

今年に入ってから荘の近況をご報告いたします。

荘には現在22名の方々がお住まいになっておられますが、高齢になられても尚お元気な先生方は、笑顔でご不自由な方々にお声を掛けてくださっています。大変ありがたいことです。

スタッフや、運営委員も平均75歳で、老老介護の様相を見せていますが、愛に満ちた業「にじのいえ信愛荘」から元気を与えられていることも確かです。

荘では、近隣の井上医院、梅の園、多摩リハビリセンター等多様な専門施設と連携をとり、緊密な関係をもつことによって、お一人おひとりの変化に迅速に対応しております。

今年に入って、伊藤卓江・故伊藤忠雄牧師夫人は、難病に耐えぬいて八王子にある永世病院で天に召されました。

2月5日「にじのいえ信愛荘」において、河辺伝道所増金潔牧

師司式、伊藤地塩在荘隠退教師の奏楽によって葬儀・告別式が行われました。最後まで、荘の皆さまのかかわりの中で執り行われたこと、主の御業を讃え感謝いたします。

4月27日、柳沼政一・齊子夫妻が入荘されました。猪苗代湖をひかえる雪深い地、川桁伝道所で約30年間奉仕をされ、伝道の最先端にたつて、教会を守られました。このような牧師ご夫妻をお迎えすることは、まさに「にじのいえ信愛荘」の大切な務めであると話し合いました。

運営委員会は「にじのいえ信愛荘」の高齢化に即した、機能面、様態面など総合的に見直しが必要であると、将来構想の検討を進めているところです。併せて、この荘に相応しい人材が与えられるよう、皆様に呼び掛けをしているところです。

■ 訃報
黒田愛子(元小見川教会)牧師は6月8日午前9時31分天に召されました。92歳でした。2014年12月に梅の園メディケアセンターに移られた後も、荘の関わりの中にありました。祈りをもって、ご希望の献体先までお送りしました。

予告 チャリティコンサート

出演・桜美林大学聖歌隊

指揮・横山正子氏

オルガン・永井幸太氏

日時・10月22日(土)

午後2～4時

会場・青山学院大学

ガウチャー記念礼拝堂

桜美林大学聖歌隊は横山正子教授(神奈川・橋本教会員)の指導のもと、本大学の礼拝他さまざまな機会に奉仕、学外の公演にも積極的に活動されています。若人の混声合唱をお楽しみいただけることでしよう。

いのちのことは社よりCDもリリース、若いピュアーなハーモニーに新鮮さを感じます。

チケットは8月半ばから販売しますので、よろしくお願いいたします。

(募金小委員会・西村佳子)

案内 国立劇場歌舞伎座公演

毎年12月初旬上演の歌舞伎を団体割引で鑑賞することができ

ます。
問合せは松田町子募金委員まで。
TEL 03(3718) 1870

職員募集

にじのいえ信愛荘では、荘長、施設長のもとで、入荘者の生活全般のお世話をする住込み職員

の募集をしています。ご協力をお願いいたします。

条件 キリスト者女性 単身 要運転免許

待遇・給与・当施設規定による (委細面談)

賞与 年2回

社会保険完備 食事つき

週休2日 有給休暇あり

定年65歳

(健康状況等により、定年後も嘱託雇用可)

応募方法

①所属教会牧師推薦状

②履歴書

③健康診断書

以上を添えて左記へ

〒198-0005

青梅市長淵2-687-2

「にじのいえ信愛荘」事務局

(職員応募書類在中)と明記

TEL 0428-22-2283

面接・書類選考の上、面接日をお知らせします。

荘日記



施設長 松村 誠一

●2015年11月

- 2日(月)お茶会(11名)
- 7日(土)チャリティコンサート
(荘員7名 スタッフ2名)
- 9日(月)スタッフ会
- 14日(土)第1回クリスマス準備会
- 16日(月)食事改善検討会
- 17日(火)防災訓練(火災防止チェック)
- 19日(木)井上医院健診(インフルエンザ予防接種)
- 22日(日)霊南坂教会来訪(9名)
- 24日(火)横山利江姉入荘
- 26日(木)運営委員会
- 30日(月)誕生会・相談会
飛田悦子師退荘
加藤鈴姉退荘
- 第3回クリスマス準備会
- 2015年12月
- 7日(月)スタッフ会 お茶会(11名)
- 配管水漏れ修理、高木睦子姉ボランティア奉仕(月2回程度)
- 9日(水)紅葉狩り(川合玉堂美術館)(15名)
- 11日(金)めぐみ幼稚園来訪
- 14日(月)相談会、
- 第四回クリスマス準備会

- 15日(火)東京聖書学校来訪(12名)
- 17日(木)井上医院往診
- 22日(火)クリスマス礼拝・祝会(65名)
- 23日(水)玉川平安教会来訪(20名)
- 青梅キリスト教会キャロリング(11名)
- 25日(金)入院所中の荘員クリスマス問安
- 29日(火)阪口和美委員宿泊ボランティア
- 30日(水)足立直子委員宿泊ボランティア

●2016年1月

- 2日(土)飯澤忠師・弘子委員宿泊ボランティア(2泊)
- 4日(月)お茶会(12名)
- 11日(月)スタッフ会・第1回イースター準備会
- 12日(火)聖書神学舎来訪(25名)
- 21日(木)井上医院健診、佐藤美幸姉週1日ボランティア(3月迄)
- 22日(金)高橋いそ子姉パートで週2日2泊勤務
- 25日(月)誕生会・相談会
- 26日(火)予算検討会
- 29日(金)第2回イースター準備会
- 2016年2月
- 1日(月)お茶会(11名)
- 5日(金)伊藤卓江姉(元荘員)の葬儀を当荘で行う(45名)
- 9日(火)スタッフ会
- 18日(木)井上医院健診
- 運営委員会

- 21日(日)青梅教会来訪(15名)
- 29日(月)誕生会・相談会
- 第3回イースター準備会

●2016年3月

- 7日(月)お茶会(12名)
- 8日(火)スタッフ会
- ガス漏れ点検(年一度)
- 14日(月)食事改善検討会
- 15日(火)運営委員会
- 23日(水)春の植栽
- 24日(木)井上医院健診
- 28日(月)相談会
- 29日(火)イースター礼拝・祝会(60名)
- 31日(木)LED工事
- 2016年4月
- 4日(月)お茶会(16名)
- 6日(水)高木睦子姉ボランティアからパート勤務へ(週1日)
- 10日(日)墓前礼拝(9名)
- 12日(火)スタッフ会
- 15日(金)お花見(有間ダム)(12名)
- 18日(月)防火設備点検
- 20日(水)東村山教会来訪(11名)
- 21日(木)井上医院健診
- オルガン3台調律
- 25日(月)誕生会・相談会
- 27日(水)柳沼政一師・齊子姉入荘
- 30日(土)パート石井幸子姉退職
- 今後はボランティアとしてご奉仕
- なお、前回までの荘日記で紹介した土・日曜ボランティアの方々以外に、照沼まりえ姉にもご奉仕いただいています。

あとがき

第13号をお届けします。ご執筆くださいました皆さまに、心から感謝申し上げます。

ご高齢やご体調などにより、医療・ケア施設に移られた先生方の新しいご生活の上にも、主にある平安を切に祈ります。そして、これまでのご執筆のご協力を深く感謝いたします。

にじのいえ信愛荘の庭の花々は、今の季節が一番美しい頃でしょう。土いじりの好きな方々の嬉しそうなお顔が目につかびます。ご入荘の皆さま、スタッフ、パート、ボランティアの方々のご健康が維持されますよう祈っております。

新入荘者の柳沼政一牧師・齊子ご夫妻は、4月下旬に入荘されたため、ご生活がすっかり落ち着かれてから、次回の第14号で、自己紹介をお願い申し上げます。

今回献金報告を別冊でお届けします。近隣教区ばかりでなく、遠く北海道、西中国、東中国、四国、九州、沖縄など全国の皆様のお祈りとご支援を頂き、励まされます。

編集委員会

- 長・成松三千子 (柿ノ木坂教会)
- 石井泰子 (小松川教会)
- 岸 俊彦師 (経堂北教会)
- 黒沢咲子 (下谷教会)
- 阪口和美 (神奈川教会)